

証券コード：7226

極東開発工業株式会社



第83期 期末決算のご報告

2017年4月1日～2018年3月31日

IR REPORT



トップメッセージ

株主の皆様におかれましては、ますますご盛栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

2017年4月1日から2018年3月31日までの当社第83期営業の概況についてご報告申し上げます。

■ 2018年3月期の概況

当連結会計年度における我が国経済は、米国の保護主義的な政策や、中国・北朝鮮など近隣諸国における政治的リスクの高まりがあったものの、企業収益の改善に伴い設備投資や雇用・所得環境及び個人消費が持ち直すなど、景気は緩やかな回復基調で推移しました。

このような状況下、当社グループは中期経営計画 2016-18 ～Value up to the Next～ (2016年4月1日～2019年3月31日)の2年目として前連結会計年度に引き続き、確固たる収益基盤の確立と事業の質の向上を目指し諸施策を実行しました。

この結果、当連結会計年度の業績は前連結会計年度と比較して、売上高は5,945百万円(5.6%)増加して112,690百万円となりました。一方、営業利益は900百万円(8.1%)減少して10,245百万円、経常利益は628百万円(5.7%)減少して10,330百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は940百万円(11.6%)減少して7,190百万円となりました。

■ 今後の見通し

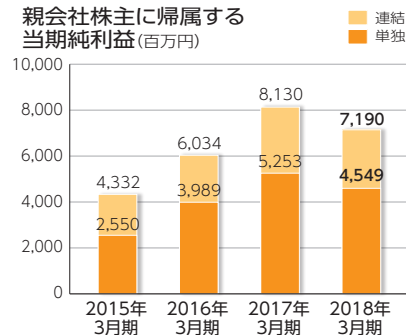
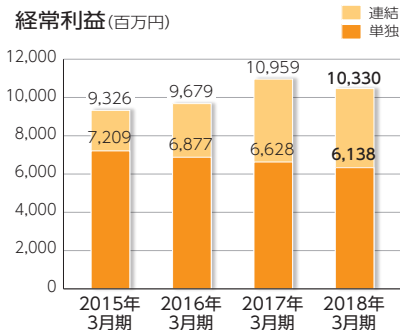
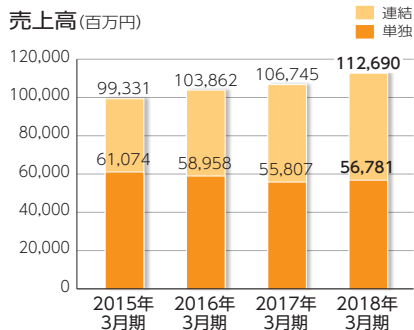
我が国経済は、海外の政治的リスクなどを抱えつつも、好調な企業業績を背景に設備投資や雇用及び所得環境の改善が続き、全体として引き続き堅調に推移するものと思われま

す。当社グループは、中期経営計画 2016-18 ~Value up to the Next~ (2016年4月1日~2019年3月31日)のもと、売上・利益の確保及び企業価値の一層の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも引き続き変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2018年6月 取締役社長 高橋和也

■ 業績ハイライト



高い機能性を秘めた美しいフォルムに一新！ ひとつ先を行くごみ収集車のカタチ！

新型4t車級ごみ収集車「プレスパック®」・「パックマン®チルト」をフルモデルチェンジし発売



新型4t車級 プレス式ごみ収集車「プレスパック」

2017年11月に、4t車級ごみ収集車 プレス式「プレスパック」及び回転板式「パックマン チルト」をフルモデルチェンジし発売しました。

新型車は、曲面を多用した美しく力強い洗練されたフォルムとスタイリッシュなデザインにさらなる一体感を与える専用設計



新型4t車級 回転板式ごみ収集車「パックマン チルト」

のLEDリヤコンビネーションランプを採用しました。

今までのごみ収集車のイメージを一新し街中に優しく溶け込む外観としたほか機構及び機能も徹底的に見直し、よりスムーズで効率的な作業を可能としています。

4t車級 新型「プレスパック」・「パックマン チルト」の特徴

1 従来のごみ収集車のイメージを一新する美しく力強いフォルム

車両全体のデザインを一から見直しました。今までのごみ収集車のイメージを一新する曲面を多用した美しく力強い洗練されたフォルムで、街中に優しく溶け込みます。



2 専用設計のLEDリヤコンビネーションランプで視認性が向上

テールランプには専用設計のLEDリヤコンビネーションランプを採用しました。スタイリッシュなデザインにさらなる一体感を与えるほか、車両後方及び側方からの視認性が向上し安全な収集作業に貢献します。



LEDリヤコンビネーションランプ
(プレスパック)

3 クラス最大級の投入口幅を確保

投入口幅はクラス最大級となる1,700mmを確保しました。

ワイドな投入口で効率的にごみの投入を行うことが可能です。



投入口 (プレスパック)

耐摩耗鋼板「HARDOX[®]」の採用で軽量化と高強度を実現！

新型4t（耐摩耗鋼板仕様）リヤダンプトラックを発売

耐摩耗鋼板「HARDOX」を採用した新型の4t（耐摩耗鋼板仕様）リヤダンプトラックを開発し、2018年2月に発売いたしました。（※「HARDOX」はSSAB社の登録商標です。）

新機種は、高い硬度と靱性で多くの実績を誇る耐摩耗鋼板「HARDOX」をボデーに採用することで、強度の向上と大幅な軽量化を実現しています。また、外観もサイドゲート及び

テールゲートをスチフナ（補強柱）レスとすることで、すっきりとしたシンプルなデザインとしました。

高い性能と美しい外観を併せ持つ、新しいダンプトラックです。



特徴

1. 高強度ボデー

「HARDOX」の採用により耐衝撃性だけでなく、変形や亀裂の発生にも強い高強度なボデーとしています。これにより耐久性が向上し、長寿命化も実現しました。

2. 大幅な軽量化

「HARDOX」の採用により、強度を保ったまま板厚の薄肉化と補強部品の削減を可能としました。これによりボデー重量は、従来機に比べ約120kg、レンタル向け強化ボデーに比べ約320kgの軽量化を実現し、効率の高い運搬と空荷状態における燃費向上に貢献します。



テールゲート

「第45回東京モーターショー2017」に出展

2017年10月27日～11月5日に東京ビッグサイトで開催された「第45回東京モーターショー2017」の（社）日本自動車車体工業会ブースに出展いたしました。

今回は、フルフラット式1台積車輛運搬車の先駆者としてお客様より根強いご支持をいただいている「フラトップ®ZeroII」及び、参考出品として、従来のごみ収集車のイメージを一新するスタイリッシュなデザインと基本性能を大幅に向上させた新型4t車級プレス式ごみ収集車「プレスパック®」の2台の製品を展示し、ご紹介させていただきました。



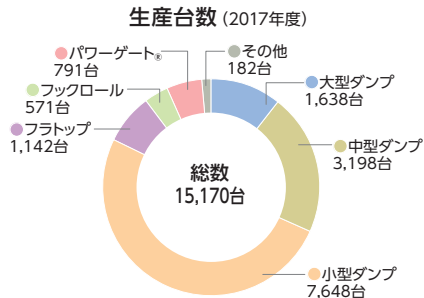
1台積車輛運搬車「フラトップ ZeroII」

工場紹介 横浜工場

横浜工場はダンプトラックの主力生産工場です。大型車から中小型車までを生産しています。また、1台積車輛運搬車：フラトップ[®] ZeroII、中小型脱着ボデー車：フックロール[®]の生産も行っています。

神奈川県中央部に位置する大和駅（小田急、相模鉄道）からは徒歩圏内で、住宅街、商業施設に囲まれた立地環境の中、限られた敷地を最大限有効活用する工夫をしている工場です。

当社の経営理念に基づき、地域活動へ積極的に参加する等、広く社会に奉仕しています。



大型ダンプ



4tハイパースイング・フックロール[®]

名古屋工場に新パワーゲートセンターが竣工

新パワーゲートセンターは、事務所棟（3階建）を併設した鉄骨造・延床面積5,775㎡のパワーゲート[®]。専門の生産工場で、アルミ加工機の増設や、自動倉庫及び自動搬送台車（AGV：Automatic Guided Vehicle）による場内物流の自動化を行うことで効率的な生産活動を可能としているほか、生産工程においては天井クレーンを設けず、省力装置（バランサ）を導入しました。

また環境にも配慮しており、夏場の暑さ対策のため、生産工場の屋根への遮熱塗装や天井サーキュレーションを装備したほか、照明のオールLED化及び自然光採光のための「スカイライトチューブ[®]」を採用しています。（※「スカイライトチューブ」は株式会社井之商の登録商標です。）

その他、お客様に生産工場全体を一望いただける見学歩廊及びパワーゲートの歴史や実製品をご覧いただける展示室を設置しました。



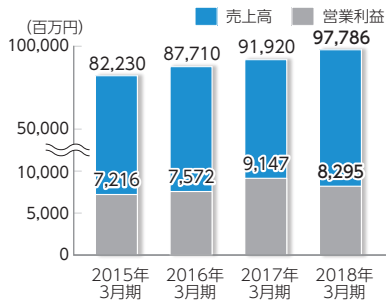
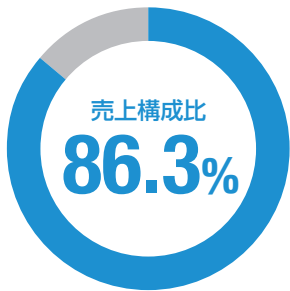
全景



生産工場内

■ セグメント別概況

[特装車事業]



国内は、物流関連車両の需要が高水準で推移しました。当社グループでは、2018年1月に名古屋工場において竣工した新パワーゲートセンターなど、各工場で生産の合理化及び効率化に向けた設備投資等を推進しました。

主な新製品では、2017年10月に国内最長の39mブームと国内最大の吐出量を実現した新型コンクリートポンプ車「ピストンクリート® PY165-39」を市場に投入したほか、11月には4t車級ごみ収集車のプレス式「プレ



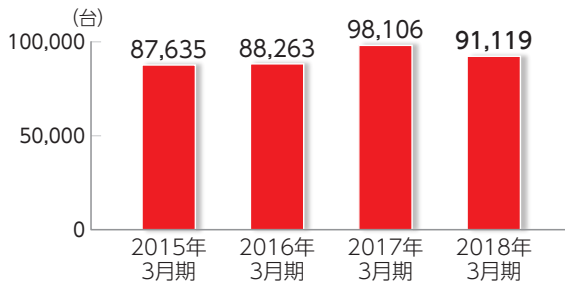
ピストンクリート® PY165-39

スパック®」及び回転板式「パックマン® チルト」をフルモデルチェンジし発売するなど、当社の技術力を活かした製品を投入しました。

海外は、前期に受注したウガンダ共和国向けの輸出車両の生産や、インドネシアにおいて製品ラインナップを追加するなど、新たな取り組みを行いました。

これらの結果、売上高は5,866百万円（6.4%）増加して97,786百万円となりました。一方、営業利益はコストアップ等により、851百万円（9.3%）減少して8,295百万円となりました。

■ 国内普通トラック登録台数の推移



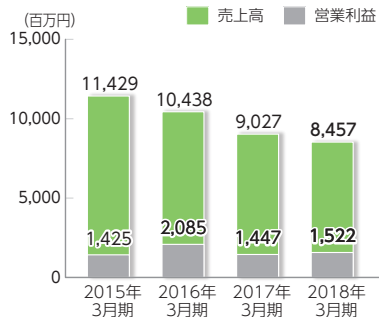
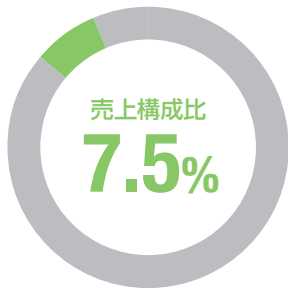
PANECT® 仕様 フラットパネルバンセミトレーラ



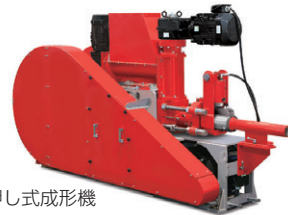
インドネシア仕様テールゲートリフタ

■ セグメント別概況

[環境事業]



バイオガスプラント



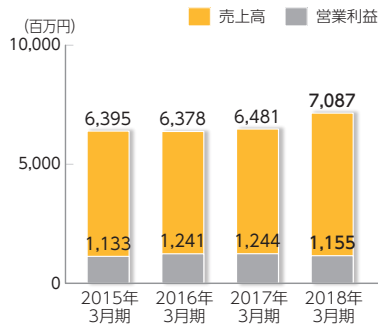
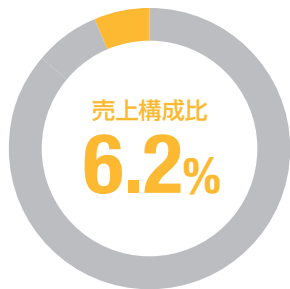
突き押し式成形機

プラント建設では受注済物件の建設を進めたほか、ストックビジネスとしてメンテナンス・運転受託にも継続的に注力しました。

バイオガスプラント事業においては、新たな受注に向けた情報収集や提案等の営業活動を行いました。

これらの結果、売上高は工事進行基準売上の減少により、569百万円（6.3%）減少して8,457百万円となりましたが、営業利益は75百万円（5.2%）増加して1,522百万円となりました。

[不動産賃貸等事業]



コインパーキング
(P.ZONE®)



インドネシア
立体駐車装置初号機

立体駐車装置はストックビジネスであるリニューアル及びメンテナンスの受注確保を図りました。コインパーキングは、2017年4月に名古屋市にオープンした立体駐車場「ささしまライブパーキング」や、その他事業地において売上の確保を図りました。

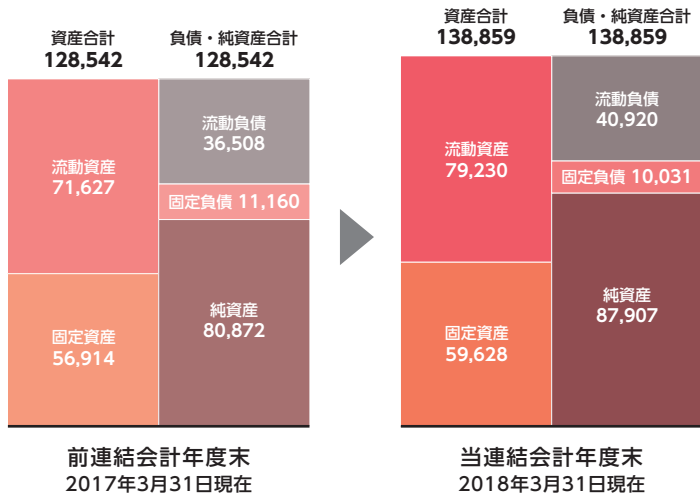
海外では、インドネシアで2018年3月に立体駐車装置の2号

機を受注しました。2018年12月の完成を目指して建設を進めてまいります。

これらの結果、売上高は606百万円(9.4%)増加して7,087百万円となりました。一方、営業利益は89百万円(7.2%)減少して1,155百万円となりました。

■ 連結財務データ (日本基準)

連結貸借対照表の概要 (百万円)



..... ポイント解説

当連結会計年度末の財政状態は、前連結会計年度末と比較して、総資産は10,317百万円 (8.0%) 増加して138,859百万円となりました。

流動資産につきましては、現金及び預金の増加等により7,602百万円 (10.6%) 増加して79,230百万円となりました。

固定資産につきましては、投資有価証券の時価の上昇等により2,714百万円 (4.8%) 増加して59,628百万円となりました。

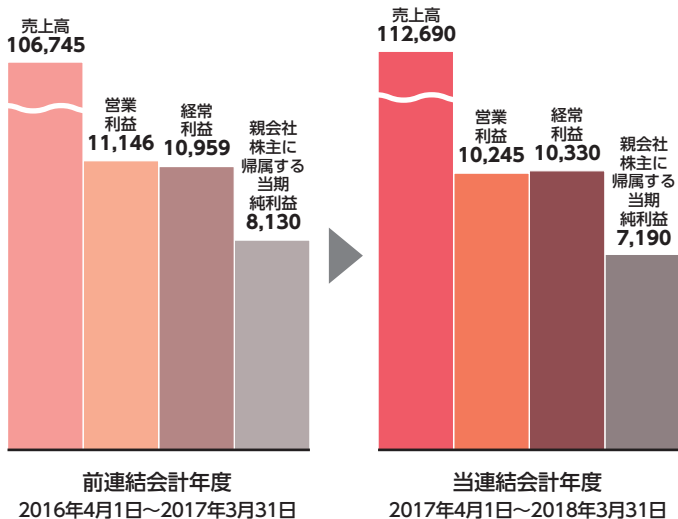
負債につきましては、流動負債は電子記録債務の増加等により4,412百万円 (12.1%) 増加して40,920百万円、固定負債は長期借入金の返済等により1,129百万円 (10.1%) 減少して10,031百万円となりました。

純資産につきましては、親会社株主に帰属する当期純利益を計上したこと等により、7,034百万円 (8.7%) 増加して87,907百万円となりました。

なお、当連結会計年度末現在の自己資本比率は62.7% (前連結会計年度末62.3%) となりました。

.....

連結損益計算書の概要 (百万円)



..... ポイント解説

中期経営計画 2016-18～Value up to the Next～（2016年4月1日～2019年3月31日）の2年目として前連結会計年度に引き続き、確固たる収益基盤の確立と事業の質の向上を目指し諸施策を実行しました。

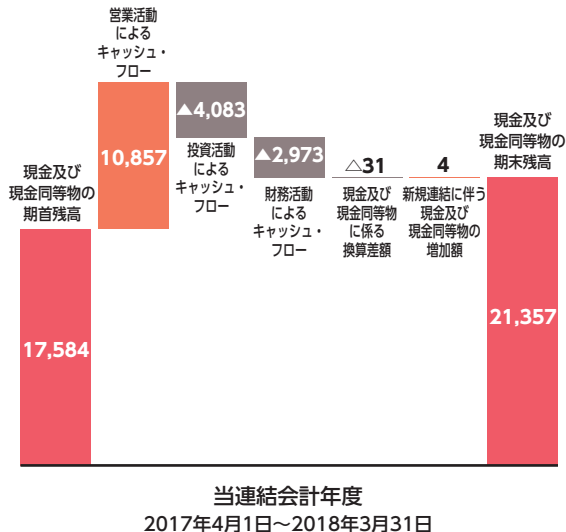
これにより連結ベースで売上高112,690百万円、営業利益10,245百万円、経常利益10,330百万円、親会社株主に帰属する当期純利益7,190百万円となりました。

今後とも当社グループでは更なる業績の拡大に向けて引き続き諸施策に取り組んでまいります。

.....

■ 連結財務データ (日本基準)

連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (百万円)



ポイント解説

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べて3,772百万円 (21.5%) 増加して、21,357百万円となりました。

・営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動による資金収支は、10,857百万円 (前年同期比△1,116百万円) となりました。これは税金等調整前当期純利益の計上及び仕入債務が減少したこと等によるものです。

・投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動による資金収支は、△4,083百万円 (前年同期比△808百万円) となりました。これは固定資産の取得等によるものです。

・財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動による資金収支は、△2,973百万円 (前年同期比+799百万円) となりました。これは借入金の返済及び配当金の支払等によるものです。

利益還元について

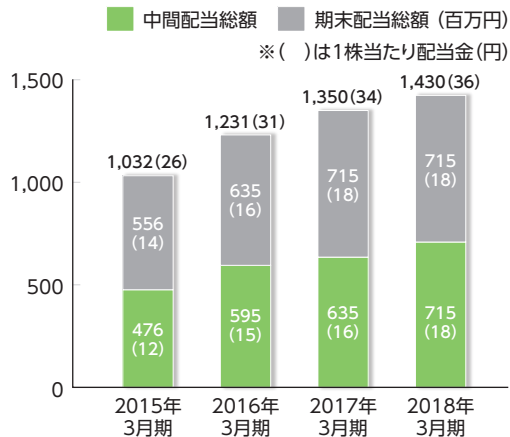
当社グループでは、株主還元を経営の最重要政策の一つと考え、業績の向上と財務体質の強化を図りながら、将来の事業展開、経済情勢等を勘案して、株主の皆様のご期待にお応えできるよう努めています。

配当について

2018年3月期の期末配当金につきましては、計画通り1株当たり18円とさせていただきます。

これにより、中間配当金を含めました年間配当金は、前年実績の34円と比較して1株当たり2円増配の36円となります。

配当総額の推移



■ 企業データ

〔会社概要〕 (2018年3月31日現在)

商号	極東開発工業株式会社 KYOKUTO KAIHATSU KOGYO CO., LTD.
設立	1955年6月1日
資本金	11,899,867,400円
従業員数	連結2,781名 単独999名

〔役員〕 (2018年6月27日現在)

代表取締役社長 社長執行役員	高橋和也
代表取締役専務 専務執行役員	近藤治弘
取締役 常務執行役員	米田卓
取締役 常務執行役員	酒井郁也
取締役 執行役員	則光健男
取締役 執行役員	布原達也
社外取締役	木戸洋二

社外取締役	道杉高楠	上本島	明己典雄
常勤監査役	高楠乗	鞍島	彦彦 ^(注)
社外監査役	中堀	本藤	昇宣
社外監査役	加櫻	井山	晃章
常務執行役員	栗細	澤田	裕幸
執行役員	原木	津濱	一輝
執行役員	高濱	晋	幸一
執行役員			
執行役員			
執行役員			
執行役員			
執行役員			
執行役員			

(注) 就任は2018年7月1日付。

■ 株式データ (2018年3月31日現在)

[株式の状況]

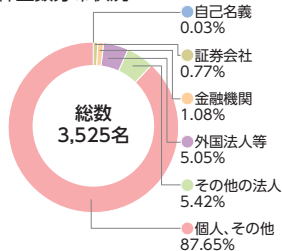
発行可能株式総数 170,950,672株
 発行済株式総数 42,737,668株
 株主数 3,525名
 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社三井住友銀行	1,600	4.03
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井住友信託銀行再信託分・株式会社みなと銀行退職給付信託口)	1,498	3.77
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,292	3.25
極東開発共栄会	1,247	3.14
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,147	2.89
三菱UFJ信託銀行株式会社	1,012	2.55
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	910	2.29
日本マスタートラスト信託銀行株式会社トヨタ自動車口	837	2.11
宮原 幾男	832	2.09
GOVERNMENT OF NORWAY	819	2.06

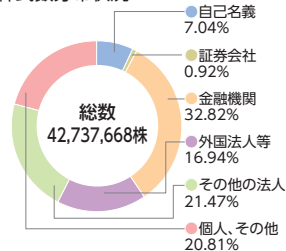
(注) 持株比率は、当社が保有する自己株式(3,009千株)を控除して計算しております。

[株式分布状況]

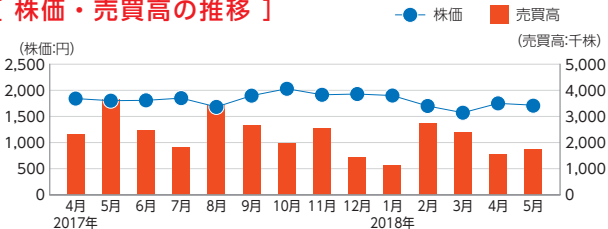
株主数分布状況



株式数分布状況



[株価・売買高の推移]



※株価は月末の終値を示しています。

[株主メモ]

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
配当金受領株主確定日	期末 3月31日 中間 9月30日
公告方法	電子公告 当社ホームページにて掲載 (http://www.kyokuto.com/)
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777 (通話料無料)
上 場 取 引 所	東京証券取引所市場第一部

Kyokuto Kaihatsu Kogyo Co., Ltd.

<ご注意>

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

この冊子に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

〒663-8545 兵庫県西宮市甲子園口6丁目1番45号

極東開発工業株式会社 総務部

TEL:0798-66-1000

URL:<http://www.kyokuto.com/>

MAIL:soumu@kyokuto.com

社名・商品名・ロゴ等は各社の商標または登録商標です。

